

# 軒高 2 m 程度の施設でも高収量が得られる トマト年間 4 作袋培地栽培技術

## 野菜部

### 1 背景、目的

本県のトマト促成栽培は、主に軒高が 2 m 程度のハウスで土耕栽培が行なわれています。一方、トマトをより適正な光量と根圏環境で栽培するため、一部の農家は高軒高ハウス(軒高 4 m 程度)で養液栽培を行い高収量を得ていますが、これらの施設・装置の導入には高い費用がかかります。

そこで、農家所得の向上を図るため、一般的な軒高 2 m 程度のハウスでも、導入費が安価な袋培地栽培で、高収量を得られる栽培技術を開発しました。

### 2 成果の内容、特徴

- 1) 軒高 2 m 程度のハウスに有機質資材を主体とした袋培地（イシグロ農材製）を、2 列ずつ置き（10a 当たり 1,200 袋）、袋培地の各列にはかん水用の点滴チューブを設営します（図 1）。
- 2) 栽培は 1 列の袋培地を 8～12 月、隣の列を 10～3 月に行い、その後、12 月に栽培が終了した 1 列を 1～5 月、3 月に終了した隣の列を 3～7 月に行います。全ての栽培列は 6 段果房まで収穫します（図 1、2）。
- 3) 根圏環境が良い袋培地を用い、隣接する 2 列の栽培期間をずらすため、隣り合う株との光競合がほとんどありません。加えて、年間に 4 作栽培できるので、収量は土耕栽培の 2 倍の約 30t/10a が得られます。また、収穫果実の品質は慣行の土耕栽培と同等です（図 1、2、3、一部データ略）。
- 4) 栽培システムの導入経費は 10a 当たり 3,810 千円で、その他に種苗費、雇用労賃などが慣行の土耕栽培より増えますが、粗収益は慣行の約 2 倍となり、約 1.5 倍（2,063 千円）の所得が見込めます（図 4）。

